

令和7年度 第2回 河北町総合教育会議 会議録

1 出欠席者氏名

河北町長 森谷 俊雄、河北町教育長 板坂 憲助

河北町教育委員 児玉 康子、木嶋 真一、槇 ふみえ、庄司 泰寛

欠席者（0名）

2 事務局職員の職氏名

学校教育課長 宇野 勝、生涯学習課長 秋場 弘昭

教育主幹(兼)指導主事 森 暢仁、指導主事 鈴木 玄輝

補佐兼教育総務係長 齋藤 淳

3 日 程

令和8年3月25日（木）午後3時10分 開会 河北町役場 3階 302会議室

1 開会

2 町長あいさつ

3 協議

- (1) 河北町立小中学校整備基本構想・基本計画について
- (2) 河北町第3次教育振興計画策定について
- (3) 山形県立谷地高校支援について
- (4) 放課後児童クラブについて
- (5) 令和8年度の町立小中学校の児童生徒数及びクラス数について

4 その他

5 閉会

りんじ

1 開会

宇野課長

只今より、令和7年度 第2回河北町総合教育会議を開催いたしたいと思いをします。はじめに町長あいさつを森谷町長よりお願いいたします。

2 町長あいさつ

森谷町長

3月議会が終わりまして、来年度予算については可決頂きました。

その中で、議会初日、12月議会後に設置された特別委員会の報告が冒頭出され、本会議において9対3で可決されたことで、内容的には後で申し上げますけれども、その後一般質問の質疑、2人の議員から学校関係がございまして、最終的に予算特別委員会に入る前に、パブリックコメントも終えて通常であれば案を取るという段取りになるわけですが、議会の議論を踏まえて検討しますと、継続検討ということになります。なので、予算の中に盛り込んでおりました基本設計、今年基本構想計画をつくって来年基本設計に入るという段取りでしたけれども、一旦、基本設計については落とさせていただいて、基本構想基本計画の案を取った後、今後検討した上で、改めて予算も含めて議会のほうをお願いしていくということにしております。

まず、来年度の予算について、資料で御説明申し上げます。来年度の予算は108億1,000万ということで、これは令和3年度、役場庁舎の建設費が1番大きかった年に続いて過去2番目の予算規模ということになります。大きいのは、ひなの湯の2号源泉が掘ってからだいぶ経過してることで、温度も少しずつ下がっているということで、3号源泉を掘るということで2億3,000万、あとそれから教育委員会関係ですけども、町民体育館の大規模改修、屋根とかありまして、それに2億4,000万、合わせて5億弱、これが大きな中身となっています。

来年度の予算については、大きく三つの重点施策ということで、「住むならかはく安全安心の基盤づくり」、中身的には防災減災、溝延と押切、吉田地区の最上川本体の築堤が完了する、それに合わせて、法師川、古佐川、榎川といった県管理河川のほうの整備にも入っていくことになります。あと、河北病院、令

和13年度に新病院ということで今の陵東中学校跡地に建設されることが決まりましたので、1番大きな課題としては町の医療を守るということで、遠くなるけども新しい病院に免許持ってる人も持っていない人も通える病院にするために、公共交通機関をどういうふうに手当てするかということを準備に入らなきゃならないです。あともう一つは、医業承継です。河北病院と寒河江市立病院のお医者さんの高齢化が進んでますけども、河北町内の開業医の先生方も高齢化が進んでいます。後継者がいらっしゃる医院もありますけども、病院がなくなったことによって、河北町で開業していらっしゃる病院が減っていくというようなことがないように、開業医が続けていただけるよう、こういった支援ができるかというようなことを検討に入る予定です。

あと公共交通、高校への通学ってことはありますけども、やっぱり買物、通院、そのためには高齢の方々へべにのすけタクシーをやっていますけども、土日と祝日も使えるようにこの4月からいたします。土日がほとんど使えない状況になってますので、土日祝日もタクシーが乗れるようにしていきます。

あと、移住定住につながる住環境の支援強化ということでいうと、一つは地元回帰促進住宅開発事業の推進ということですけど、これは、旧プール跡地です。21区画、来年度に造成工事本格化しまして、令和9年の秋から冬口、雪降る前ぐらいから、分譲開始に持っていきたいとして今進めています。今年は、特に若い人にとってみると、住宅が非常に建築単価も上がってますし、住宅ローンの金利も低金利から利息がつく時代に入ってきましたので、特に子育て世帯の住宅の支援を重点的に措置するということで、今まで最大100万円がアップだったんですけども、それを130万まで上げました。あと、移住定住のところの子ども加算も130万という形で30万上げました。

二つ目の重点施策として、産業振興と農商工観光連携で言えば、大きな目玉になるのは温泉と農業で実現するアグリ・リトリート事業ということで、国の地域未来交付金ってあるんですけども、国の支援いただいて、令和8年から3年間の事業として、先ほど言いました3号源泉の採掘、ひなの湯のいわゆる大広間、個室のほうはいろいろ使われてるんですけども、大部屋を使う方が少なくなってる、もっとお客さんに生かしたいということで、今風のリラクゼーシ

ョン機能をもったスペースにリニューアルするというようなことを考えております。あとひなの宿の稼働率が高いんで、六つ部屋を増やして、1泊だけでなく、中期間滞在し楽しめるようなことをする考えです。あと、温泉を使った農業施設をひなの宿周辺に作って、温泉熱を利用した四季を通した野菜とかを楽しんでもらえる、産直と一緒に活用し、農業にも繋がるようなところを考えていくということが、来年からの3年間で6億ぐらいの事業になります。

三つ目が、次世代につなぐ支援、将来への投資ということで、子育て支援の充実では、3歳児以上のところは保育料が基本無料になってるわけですけども、0歳から2歳というところがまだまだ保育料が負担になっているところなんです。0歳から2歳児も預けてる方がほとんどですので、ここに対して、県のほうも支援してるんですけども、町のほうでも低い所得階層から高所得階層まで、所得制限を外して全ての階層に1人目は半額、2人目から無料というようなことで、0歳から2歳児への保育料の支援を拡大します。

中学校については修繕の調査、どれぐらい中学校の修繕が必要になるのかというようなことでの調査を予定どおり進めていきます。谷地高関係では、今年は53人の新入生、今年から公立高校全てで前期後期制を入れまして、谷地高は前期で40人、後期で40人募集して、前期で39名、後期13名の52名の新入生が確保出来ました。今年卒業した3年生が40名でしたので、13名、来年は多くなって、4月からスタートするということになります。いろいろと検討して予算を確保してたんですが、県外からの入学者はいませんでした。来年は地域みらい留学フェスということで、小国高校とか遊佐高校とか先行してるところありますが、全国的なそういった県外からの受入れをやっているところのPRの場なんですけども、この未来留学フェスに谷地高としても参加して、県外生を受けていければということで予定しています。予算については以上です。

3月議会で学校整備に係る議論がどういうことだったのかをご紹介したいと思います。「小中学校整備（基本構想・基本計画 今後の進め方、現校舎、敷地の活用）整備戦略」という資料を御覧頂ければと思います。

まず、議会の意見、あとパブコメしたわけですけども、大体共通する部分がほとんどだったと思います。5点ありまして、一つが学校整備方法の再検討を求

めたいというもの、内容はもっと早期統合できないのかと、あと整備方法、まず小学校を整備して、中学校と併せて一挙にするのはなかなか財政的に厳しいので、中学校は役場の借金返しがある程度落ちついた段階でと案段階ではなってるわけですが、対して既存校舎を使えばもっと小学校早く統合できるんじゃないか、あるいは小学校より中学校先にとというような内容があるんですけども、そういう中でいうと、やっぱり小学校を早期に統合をしなければと、あるいは小中一貫教育という、今回の整備方法についての小中一貫教育には理解が得られていると、というような受け止めております。

問題は、小中学校同じ校舎に一体的なものにしないと、小中一貫教育ができないのかといった疑問もあるようなんですけれども、既存の校舎、六つの小学校あるわけなんですけども、まだまだ使えそうだな、それを活用したら西部に続いて北谷地、西里、そして溝延と毎年のように複式学級の小学校も増えていくわけなんですけども、新しい小学校建てるよりも既存の小学校使ったらもっと早く複式学級解消できるんじゃないかというようなご指摘、小学校はまだまだ新しいよね、それよりも中学校の方が随分古くなってる、だから中学校を建て直すのを早くしたほうがいいといったご指摘です。

あと学校整備と財政について、まだまだ住民説明が不足だ、もっと説明をしてくださいという注文、廃校舎の利活用、利活用する場合には当然改修が必要になってくるわけですから、いくら位かかるかを含めて一緒に考えなければならぬのではないかといったご意見です。

私としては、また小学校を一つにするのか、既存校舎の利活用となると、まだ案の段階ですから、六つの小学校を使わないというようなことを前提にした利活用の検討に入るのはフライングっていうか、それこそ議会軽視かなというようなこともあって、まず学校の基本構想・基本計画、そして基本設計に入った後、既存校舎についてはどう使っていくことを考えることが手順だろうというふうに考えてるんですけども、やっぱり小学校の校舎もったいないよねっていうことも根底にあると思いますけども、もう並行して検討すべきだというような意見です。

振り返りですけども、教育委員の皆さんには言うまでもないことですけども、

案の考え方としては、小中一貫教育の実効性を上げていくためには施設一体型の整備が必要だと、議会の指摘も、基本計画・基本構想全てについて再検討しろとかって言ってるのではないと、特別委員長の報告で言えば整備方法の1点だと、端的に言えば小学校の今の校舎使ったら財政的負担少ないんじゃないのか、あと中学校が先でないのか、この整備の方法、手法、この1点が議会からの意見だということであります。

校舎の整備方法については、できるだけ早い統合を期待するとの意見、これは教育委員会の検討中からもこのことは議論になったわけです。できるだけ早い統合を期待するというような意見も踏まえて、小中同時に整備したほうがいいだろうと、施設一体型ということで検討したわけですがけれども、この時点では教育として目指すべき理想の学校をどうつくっていくかという視点でご検討頂いたわけですが、できるだけ早く施設1体型の小中学校整備を整備するにはどれくらいお金がかかるのかということで、当然その上で財政が、校舎づくりどうするんだということでも出てくるわけです。

町の財政負担を総合的にさっき言いましたように、1番大きいのは役場の庁舎の返済です。大体6億から7億ぐらいの借金返しの毎年予算で、役場庁舎分では、令和7年度が1番役場の借金返しが多い年で、今年でいうと1億6,300万借金返してます。これがずっと、令和23年度まで続きます。今年の1億6,300万が最大ピークですから、毎年100万弱ずつ減っていきます。そして、令和22年度には1億になり、23年度に借金返しが終わる年になります。この年が7,400万ぐらいの借金返し、今の半分以上になります。今これを含めた借金返しが、毎年8億とか返しています。

そこで小中一緒に令和13年度に建てたらどうなるんだっていうと、ピークで大体3億5,000万ぐらい、小学校だけ建てて中学校先送りってのが今の案ですが、そうすると、大体1億4,000万ぐらい、中学校だけ先行したらいいという議会の意見ですが、そうすると中学校のほうの借金額は2億6,000万、だから小学校のみ先行するよりも、中学校のみを先行した場合には、1億2,000万ぐらい、借金は多く返さなければならなくなります。なぜかというのを後で説明します。

そういうことで、基本計画・基本構想計画の案については財政を考えて、財政支援がほとんど見込めない中学校校舎の改築については、さっき言ったように非常に影響が大きい、まず文部科学省の財政支援が得られる小学校を優先しよう、それが今の案だということであります。

要は、これがまだまだ説明不足なのか分かりませんが、小学校は六つを一つにするんです。統合するから国の支援があるんです。河北中も、例えば二つあってそれを一つにするんだったら国の支援も出るんですけど、一つを一つにするだけなんで国の支援ありません。借金に対する支援もないんです。借金返しのとき国で支援してくれるのは小学校の場合はあるんですけど、中学校がないんで、3月議会の質疑からということでちょっと振り返りですけども、先ほど言いましたけども、やっぱりこれだけ子どもが少なくなってる中で小学校は早急に統合した方がいいことと、小中一貫教育を目指すことには大方の理解が得られるのではないかと、今の小学校、例えば中部小学校とか南部小学校使っても、西川町だって分離型でやってることから、施設一緒にはしなくてもいい学校ができるんじゃないの、先生方の工夫でっていうことですけども、そこに対して、施設一体型が望ましいというところをどういうふうに考えるか、理解していただくかということだと思います。

あともう一つは、小学校の整備、中学校の整備方法について、再検討を求めたいと議会からの申入れがあって、整備方法については継続検討いたします。あわせて、もう並行して小学校校舎の利活用についても検討に着手したいと思います。

今の小学校をどう使うのかっていうことも、やっぱり町民の方々が大きな関心もあったと思うんで、それは新しい学校決まってからっていうのが今までのスタンスでしたけども、もう平行して、どう小学校校舎を使っていくのかということ、これは教育委員会だけの話じゃなくて、町長部局、基本的には企画財政課が中心になりますけども、全庁的に検討に着手したいと、来年度から着手したいと思ってます。

今回の五つのポイントにも関わるんですけども、小学校は新しい校舎の新築にこだわらずに、今ある校舎を使ったらもっと早く複式学級解消できるんじゃない

ないのかという点について、これ3月議会で2人の議員からの一般質問に対して、私が答弁した内容を書いています。

現校舎を利用となると1番大きい中部小学校を想定してます。1校に統合する場合、増築が必要だと見込まれること、今の中部小学校に全ての小学生が、仮に令和13年でも入りません、増築が必要になってきます。だから南部小学校も使ったらとなると、2つの小学校に統合する場合、例えば西部小学校（の人数）しか中部小学校に入らないです。あとの西里、溝延、北谷地の子どもを南部小学校に来てもらうということになります。そういうことでは北谷地学区、溝延学区、西里学区はどうなんだろう、中部小学校と南部小学校に二つの学校になった場合に、今度通学とか、もう今だって要害、畑中、造山あたりは錯綜してるわけですし、北谷地は中部小学校を通り越して南部小までくるのかと、数合わせ的には可能でしょうけど本当に二つの学校で出来ていくんでしょうか。そんなに簡単じゃないですよっていうことをと答弁しています。今の小学校の校舎使ったほうが早く統合できる、複式学級を解消できるということですけども、そういうことからいうと、住民、保護者の理解が頂けるのか、相当の手順と時間が必要であり、統合の早期実現を見通すことは極めて困難だと思います、と答弁しております。何よりも、仮に二つで収まったとして、またクラス替えができなくなるんです。5年10年でまた統廃合問題となり、児童をどう配置するのかってそういう話でないです。勉強する場ですから、と答弁してます。

中学校校舎の大規模改修とか改築を優先すべきではないかという点については、先ほど言いましたように、中学校の整備には文科省の補助が現状ほとんど見込めないと、現状っていうのは文科省の考え方が変われば対象になるでしょうけども、私もいろんな場面で国の役人にもお話をしてますけども、非常にガードがかたいです。もう危険で学べない校舎、あと足りなくて増築する、そこに対する支援だという文科省の考え方、なかなかここはそう簡単には変わるものではないというのが感触です。頑張っていきますけども、あと統合する小学校ではさっき言ったように、国の支援が得られます。中学校には支援がありません。

そういうことで、役場建設分の返済が23年まで続きます。だんだん少なくな

りますけども、額的には精査が必要ですけども、小学校を整備したときよりも、中学校先に整備したほうが、粗々のシミュレーションですけど、1億4,000万ぐらいの毎年の額に対して中学校は2億6,000万、倍近い額の借金が中学校を先行した場合かかります。役場庁舎の返済がまだ残ってるうちに2億6,000万のものを、税金で建てて税金で返さなきゃなんないので、中学校建設はなかなか厳しいところであります。そういうことを議会で申し上げました。

あと議会からは、新しく学校を建て直す改築でなく、今の中学校を改修して使ってもいいんじゃないのかということもありましたが、仮に大規模改修ということでも相当お金を投入するわけですから、それで10年間しのぐことはありません。大規模改修した限りは、もう20、30年ぐらいは使っていかなきゃなんないということになります。かつて900人以上の規模の校舎、幾らかかるかわかりませんが、改修して30年間使い続けるのかと、いずれ立て直さなければならぬ、今は400人ですが生まれてる子供100人以下ですから、300人以下になるんですよね、だから、300人が学べる校舎を、今の校舎よりも良い校舎を30年後40年後のためにつくったほうが得策ではないか、こういった点もよくよく考える必要があると、議会で答えました。

現校舎の利活用については、今の校舎は基本的に使っていきます。壊すということは考えていません。防災拠点機能、地域活動拠点機能、福祉と健康づくりの拠点機能、産業振興、職業訓練、人材育成の拠点機能、小学校統合後の地域文化継承活動の拠点機能を中心に、町民、地域の声を十分考えながら地域に身近な今の小学校校舎を最大限活用し、当然改修も必要になってくるでしょうからお金もかかります。学校からそういった拠点として使っていくとすれば、新しい機能に着目した国の財政支援措置を最大限活用し、学校整備と並行して検討します、と答弁したところです。

一つはですね、今これから整備が必要な公的施設っていうものを洗い出さなきゃならないと思ってます。例えば、社協が入ってる福祉センター、元のJA農協の建物はもう古いんです。いずれ使えなくなります。耐震化もできない建物、そのくらい古いんです。引っ越し先が必要、あるいは建て直す必要があります。あと商工会が入ってる、昔の土地改良区の事務所、あそこも大分古いんです。職

訓センター、とび職とかいろんな科目も増えたりしてて、とび職の訓練については倉庫を借りてやっています。そういった意味で、今の職訓センターではちょっと手狭になってるというようなこともあります。そういった公的な機関で、町の直営の施設じゃないですけども、もう早晚建物を建て直すか移転先を考えなきゃなんないような建物を洗い出して、今の小学校校舎に移ったほうがいいよねっていうようなものがどういうものがあるか、全庁的に洗い出さなきゃならないと思ってます。旧溝延幼稚園、西里幼稚園、今学童さんとかでも使ってますけども、建物は大分古いです。あと小学校と比べれば、北谷地、西里のセンターと溝延の研修センターも古いです。そういったことを含めて、今後人口が減っていく中でどうするんだ、新しく作り直すのか、使える建物を使ってというのが自然な発想で、現小学校校舎に移転したほうがいいよねっていうものがどれだけあるかを洗い出すことが一つです。あと、これからこういう施設が欲しいというのもあると思います。その時箱物をばんばんつくっていくのか、サハトとか体育館をどんどんつくった時代とは違いますので、人口が減ってる中ですので、そういったものも小学校の校舎を活用して、これから河北町に必要な機能がどういうものがあるかってことを考えていかなきゃなんないんじゃないかなと思います。

例えばですね、これはあくまでも一つの方向性です。大人の小学校つくってはどうか、あるいは子育て施設、どんがホールなどいろんな子育て施設がありますけども、なかなか屋内でのびのび遊べるところが寒河江とか天童とか東根にあるけど、河北町にはないですね。そういう中で、校舎あるいは体育館であつたりと、のびのび遊べる子育て施設というようなものも考えられるのではないかな。あと、健康づくり施設等の機能、これから10年後考えると、今70代後半がお年寄りですけど、あと10～15年したら、80代半ばの人たちが中心になります。その人たちが（老健などの）施設のお世話になるのか、健康づくりだったり、仲間づくりをしている80代半ばの人たちになるかで、町の活性化は全然違った要素になると思ってます。今の小学校施設を健康づくりとか仲間づくりの新たな設備ということも可能性です。これを全部やるって意味じゃなくて、そういったものからどういうものに小学校を使っていきたいというものを考え

ていかなきゃなんないです。西里の考え方もあると思います。北谷地の考え方もあると思います。研修センターのない西部地区、南部地区、中部地区の考え方もあると思います。

そういったことで、まずは役場の中で検討に着手して、一定程度たたき台ができた段階で、地域ごとにいろんな議論というものをさせていただく必要があるのかなと思ってます。例えば河北学び館西部校だったり、河北学び館北谷地校だったり、そんなイメージで、学校教育法上の学校ではありませんけれども、むしろ生涯学習のほうの世界になるのかもしれませんが、そういった河北学び館〇〇校みたいな形を、何か夢として描いていけないかなと思ってます。

あともう一つは、非常時ですけども防災センター機能です。今の学校は体育館等、せいぜい小学校の食堂までが避難所活用ですけども、生徒たちの教室でなくなれば、1階は危ないかもしれない南部小学校や北谷地とかでも、教室の2階3階だったら十分に避難所として使えるし、冷暖房も完備の校舎ですから、いざという時は、溝延は西里まで逃げろとか、河北中まで逃げろとか、そういう形になってますけども、洪水の程度によりますけども、2階3階を使えるとなれば、避難所としては格段のインフラになるというふうに思います。

もう1人の議員から教育格差と人口減少を踏まえた町の将来戦略、人口減少対策として教育を位置づけ、教育を軸とした人材育成と提示される将来戦略ということでありました。詳しくは後ほど見ていただきたいと思いますけども、やっぱり教育格差っていうのは、地域格差もあるし、保護者の経済的な格差もあります。今後とも人口減少が続くことが見込まれる中で、人口減少の抑制はもちろんですけども、人口減少に対応した仕組みづくりが不可欠で、とりわけ若年層の定住、出産子育て支援を重点的に進める必要があります。住み続けたい、将来戻ってきたいという環境の中でと、私の認識として申し上げました。その上で、前段で教育の重要性、地方創生総合戦略にちょっと触れた上で、令和8年度は第3次教育振興計画の策定年度に当たりますと、その中で、児童生徒の減少が進む中で小学校の統合、あるいは中学校校舎の老朽化への対応などを見据えた教育の方向性が教育振興計画として示されると思っています。あと、人口減少対策に何が必要かとアンケートしてるんですけども、全年齢で圧倒的

に多いのが「魅力ある働く場の確保」と「子育て環境の教育環境の充実」、これが全年代で最も高いです。63%と40%、これを10歳代と30歳代の若い層、あるいは中学生、高校生あたりも含めていうと、魅力ある働く場所と子育て教育環境の充実、これはもう両方とも63%以上と突出してまして、3番目が公営住宅とか住宅、やっぱり暮らすところです。それが19%ということで、働く場所と子育て教育の充実が人口減少に1番必要だというのが断トツなんです。そういったことをちょっと引き合いに出しながら、子供を育て、子供の学び、成長第一に考える子育て世代の気持ちを考えるとき、学ばせたいと思える教育環境というのは、希望する就業環境とともに、最も親にとってみれば大切かつ切実な問題であり、若い世代が住む場所を選択する上で最大の関心事であると言っても過言ではないです。

特に若い世代が住む場所を選択する上で、やっぱり仕事と学校というのは最大の関心事であると言っても過言ではないと考えます。特に義務教育の場合は、基本的に住む場所によって決まる、河北町に住んだら河北町の小学校、溝延に住んでるんだったら溝延小学校、寒河江がいいなと思ったら寒河江に移り住みます。特に義務教育の場合は、基本的に住む場所によって決まることを考えれば、子供たちにとって最適の学びの場を提供できる学校づくりは、若い世代から選ばれる学校づくりに直結する政策課題であり、これからの教育人口減少抑制の鍵となる最重要政策課題であると考え、と答弁させていただいてます。小中学校の整備については、これからのまちづくりを考える上でも、人口減少に歯止めをかける上でも避けて通れない課題、問題であり、先送りすることのできない関係で考えていくことも、かほくっこの未来につながる学校教育、10年20年先を見据えた教育環境の実現に向けて、教育委員会における検討を尊重するとともに、財政運営にも十分留意して責任を持って検討を進めていきたいと述べさせていただきました。

これからの教育委員会の中で、基本構想・基本計画の案をとるべく、継続的に検討を進めていただくということになりますので、3月議会でどういう質疑がなされ、私から、答弁させていただいてるかを、ぜひご理解頂いて、今後進めていただければありがたいと思います。

本当に大変長くなりまして申し訳ありません。よろしくお願いします。

宇野課長

それでは、協議に入らせていただきたいと思います。座長につきましては、森谷町長をお願いいたします。協議（１）～（５）までございますが、先に全て説明させていただきまして、後ほど協議として深掘りしていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

3 協議

宇野課長

一つ目は、資料の１枚目２枚目になりますけれども、町長からも今話ありましたような内容に沿ったものでございます。町の小中学校整備計画基本構想・基本計画（案）についての概要版と、２枚目が議会のほうで設置しました学校整備特別委員会の報告であります。これについてはこれまでもご覧頂いているかと思っておりますので、これぐらいにさせていただきます。

二つ目は、第三次教育振興計画の策定スケジュールです。先ほどの教育委員会議の中でもお話しさせていただきましたけれども、この総合教育会議を５回ほど持ちまして、この中で策定ものほうも絞っていきたいというふうに考えてます。４月２３日、この日がスタートというふうに考えてます。これを皮切りに、議会あるいは内部でつくります策定会議、あるいは外部の各団体の代表の方などを交えた策定委員会、これらにお諮りしながら計画を進めていきたいというふうに思ってます。１月にパブリックコメントを１か月ほどして、３月の総合教育会議で策定というような形でもっていきたい、今のところこういう計画でおります。よろしくお願いします。

三つ目であります、谷地高支援についてで、町の支援としては１,０００万ほど支援に使ってます。表のほうで谷地高を支援する会ということで会を立ち上げております。個人、団体からご寄附を頂いた中で、町内の企業訪問などをさせていただいてます。バスの借り上げ代に使ってます。裏面が、町から谷地高への支援ということで７年度は８つほどの事業があります。魅力発信コーディネーターとい

うことで一人置きまして、谷地高の魅力を発信する、具体的には谷地高ニュースを発行しているということです。あとは楽弁ということで、町から 400 円ほど助成して本人は 300 円で、週 1 回ですけど、お弁当食べていただいています。あとは、山交バスの定期券の 2 分の 1 助成、あとは産学官連携ということで河北探求実践プロジェクトとして、谷地高さんとかほくらし社さんと町で産学官協定を結び、一定の補助を出しながら進めている事業です。あとは学習支援システム、全員が使えるように使用料、あと就学応援給付事業ということで、1 年生には 3 万円、2～3 年生には 1 万円相当の町内の店舗で利用できる応援券、チケット配布しています。次の二つは、県外生が来た場合の、今のところありませんが、それに対する支援ということで家賃補助であったり朝食支援だったりというふうになっております。1 番下は来年度、令和 8 年度ですね、地域未来留学ということで、先ほど町長からもありましたように、谷地高への県外生をゼロから何とか 1 にしたいという思いで新しい事業をやっていくということでもあります。

県立高校の未来創造ビジョン、これは 7 年の 4 月に出たんですけど、国のほうの関係で、なかなか案が取れなくていたんですけどようやく案が取れたということでもあります。それで、谷地高に関係すると思われるのが、右の 3 番目ですね、県立高校の在り方に関する基本的な方向性というところでもあります。その学級数の取扱いというところでもあります。特に 2 番の学級数の取扱いの (2) 入学者数が入学定員から 1 学級分を減じた数以下の年度が 2 年連続した場合、翌年度から入学定員を 1 学級減じ、簡単に言うと、80 人 2 クラス分なんで、40 人以下が 2 年続くと、1 クラスしかないという年が 2 年続くと、定員を減らしていくというような考えのようであります。あとその下 3 番目であります、市町村に唯一所在する 1 学年当たり 1 学級の県立高校の取扱いということでもあります。現在の谷地高は該当しないわけですけども、1 学級になっても、ビジョンは今後 10 年間の扱いですので、その中では廃止はしないんだというように読み取れます。募集停止は検討するとか、こういうことは書いてますけども、基本的には継続していくというように読み取ったところであり、これが県立高校のビジョンの概要であります。

次は、放課後児童クラブの実態をご覧頂きたいなと思って資料を準備したとこ

ろです。今町には4つの放課後児童クラブがございます。一つ目がさくらクラブというのが南部学区です。あと、ちびっ子学童クラブというのが中部学区であります。溝延さくらクラブが溝延、ちびっ子放課後西里学童クラブが西里、北谷地、西部、中部の一部が入ってます。今のところ、ほぼ定員パンパンですけども、今のところ足りないというようなところはないです。ただ、放課後児童クラブの在り方も変わってきていて、以前ですとやはり低学年、1〜3年生がという考えですけど、4〜6年生でも入れたいという親御さんも最近出てきているというところなんです。そこは放課後児童クラブでは受入れる、受入れを拒否することはできないんです。そういった意味で、子供さんの数は全体的に減ってきているんですけども、ニーズはそれほど落ちていかない、そんな今のところの状況です。見ていただくと、令和7年度の登録児童数ですけども、さくらクラブは4〜6年生もまだまだおられるというところなんです。溝延さんはゆるっとやってるっていうかですね、厳密に言うとおうちで子供さんを見れる状況にある家庭では、放課後児童クラブには受入れないっていうか、そういうところも厳密に言うところなんですけど、あんまりきつくはしてないんです。

今後ですね、放課後児童クラブにも課題となってくるのが、この小学校の統合もあわせて課題になってきます。今は、仮に一つに統合なったとしても、学童はそれぞれの地域の学童に行きましょう、という話をしてます。学校建てるときに、近くに学童も一緒に建てるかっていう議論もしたんですけど、一つになったとしても今のところはそれぞれ（地域）に戻って学童として、ただ溝延さんは（学校が）一つになったときには溝延はやらないとか、そういった様々な考え方はあるかと思います。それぞれの学童さんの経営っていうところもありますので、そことの兼ね合いで少し慎重に、これは統合の話とも一緒に放課後児童クラブの話はしていきたいなというふうに思ってます。

最後が、来年度の小学校の在籍数です。1番右下のほうで小学校全体では683名、中学校は398名、中学校のところを見ていただくと増えてるんです。要は、（子どもの人数が）120人台だったり140人だったりで、ちょうど多い世代の学年が二つぼんが入ってるという年なので、400人近くなってるというところなんです。ただ、上の小学校の欄を見ていただくと、学年順で見ていただくとやはり127人、

142 人と来ますが、4 年生からは 108 人、126 人と右肩下がり、山がありますが減少していることが見て取れると思います。

特徴的なのは西里小学校にまた特別支援学級ができますので、全ての学校に特別支援学級ができたというところが大きいところです。あとは複式に関しましては、西部小が完全複式です。北谷地が一つ増え、西里で初めて一つできたというところです。以上が来年度の小中学校の在籍の予定数です。
以上で資料の説明を終わります。

森谷町長

谷地高については、私と教育長と谷地高の校長、河北中の校長といろいろ意見交換しながら、今年度の学校運営とか、あるいは河北中と谷地高でどういう連携をしていけるかとか、そういった意見交換をしてます。谷地高の黒木校長と話してるのは、一致してるのは、高校の魅力化、特色ある高校とか、基本的に進学先っていうのもあるんですけども、高校生活っていうことを考えたら、やっぱり 2 クラスは維持したい、1 学級になってから魅力化を考えるのではなく、2 クラスでクラス対抗だったり、多様な学生生活、高校生生活をするためにも、そういった意味で、最低でも 41 人ということになるわけですけども、50 人、60 人と最低でも確保できる学校を目指して頑張って生徒募集に行きましょうという話をしてるところです。今年 3 月に卒業した 3 年生たちが初めてクラス替えのなかった学年なんです。

それでは、協議のほうに入っていきたいと思いますけれども、一応順を追って進めていきたいと思います。

初めに小中学校整備の基本構想・基本計画ということですけども、先ほど私が申し上げたような点について、あるいは、新聞にも再検討とか、予算取下げとか、いろんな報道になってて、今回、米沢とか中山とかいろんなところで、河北もそうですけど、学校再編絡みにかかって、本当に各市町村学校の統廃合についてはいろんな動きがあります。寒河江も、中学校名が寒河江中学校に決まって、いよいよ 1 校でとなりました。

そういう中で、今の構想、小中一貫型の校舎整備を見据えながら、段階的に小

学校整備、中学校整備という形で進めていこうとしてるものについて、今後さらに詰めていく必要があるということです。小学校、中学校どちらが先というのは極めて感情的なものではあるかもしれませんが、財政の影響という観点からすると小学校からの方が財政の影響は少ないんです。あと、施設一体型にこだわるのかどうかということはあると思います。そこは極めて教育的な見地から、一貫校の実現を目指すのであれば、校舎一体型がベストだということなところを、報告をしっかりとしながら、町民の理解、議会の議論に上げていくのか、あと財政面への影響ということであれば、これは当然財政部局も一緒になって考えていきます。この物価高騰の中で、本当に 54 億とか 120 億とか、この基本構想だけで弾いているわけですけど、1 年、2 年遅ければ、ますます右肩上がりになっていくんです。ただ、国の支援なんかも物価上がれば当然交付金も増えてもらわないと困るし、そこは時点時点で精査して事業費を見積りながら財政にどう反映していくか、今後検討をお願いすることになるわけですけども、事務局に対して、あるいは教育長に対して、御意見あればお願いします。

庄司委員

私に町民の声として入っているものは、既存の小学校校舎を、統合後どのように活用していくのかが決まってない状態で、新校舎建設に進んで、それをどういうふうに考えているんだといったものがあります。

森谷町長

やっぱり小学校が勿体ないというのはそこから来るのだと思います。どう使うかが未定なので、だったら中学校のほうが先みたいな、感情的には。

庄司委員

小学校は統合するっていうのは全然良いし、あとは魅力あるまちづくりっていう観点からすれば、小学校が新しくなりますよ、先ほどあった区画整理もするっていう中で、若い人をどんどん集めていけば河北町の活性化にもなって、人口も増えていく、子供も増えていくところもつながっていくのかなっていう声もちら

ほらあります。ただ重きがあるのは、やっぱり小学校どういう利活用してるんだってという話が大きいと感じております。

槇委員

小学生と高校生の子供とお母さんと話す機会があって、寒河江は中学校が統合され新しく出来る、それが自分たちも入った古い河北中にそのまま入るのか、自分達は家も建てて住んでいるので河北中に入れるしかないけど、流動的な、まだアパートに住んでる人だったら、寒河江にお家を建てて新しい校舎で勉強させたほうが良いと思うんだよねと言っていた方がいて、やっぱり古い校舎の学校に行くんだったら寒河江の新しいほうについていうふうな話はちらちら聞きます。

最初のこの図面、これを建てたら町外から勤めに来て若人たちが、こんなきれいだったらここに家を建ててて学校に子供を入れるかっていうふうになるのが理想なんだろうけど、いざ財政のことを考えるとそうはいかないのが悩ましいです。あと昨日、環境審議会があったときに、もう小学校の話は止まって中学校に（整備が）行くでしょっていうふうな話をした人がいたので、小学校の整備は1回止まって、中学校改築、そっちが先になったのでしょうと、話した人もいたので、もう小学校は止まったみたいな感じの話をしました。

木嶋委員

いろいろそれぞれ、段階的に新しいのを作っていったほうがいいのか、中学校の方やっぱり先にといった意見がありますが、教育委員会で1番最初にまとまった話はやっぱり小中一貫校で一つの校舎で、河北町らしい教育をとったわけですが、それがいろいろな問題、予算の問題で別々に分かれて、私たちが教育委員会で頑張って夢をもって話したのが、なかなかうまくいかなくて、おかしいなあというか、それが現実なんだと思います。もう、どの方法が一番いいのか。

逆に今回、議会で云々となっているものをマイナスにとらえないで、今まで町民の方っていうのは意識がやっぱり薄かったと思うんです。パブリックコメントでもなかなか意見が出てなくて、そういう意味では、今回具体的にこういう動きがあったとか、何かっていうので、町民の人はそういう意味では関心を持ち始め

てるっていうか、そういう意味では、私はマイナスじゃなかったのかなあと思います。それをうまく皆さんに理解して貰うように、こうして話しをすると理解できるんだけど、一部の情報しか持ってない人はまだまだと言って、けどやっぱりそういう意味ではみんなの認識を求める機会としては、逆によかったのかと、それを良い方向に進めて行ければと思います。

森谷町長

説明会をしても出席者は多くなくて、いろんな問題もそうですが、いよいよもって、となると反応が出てきて、今まではもうなるようになると思ってたことが多かったように思います。私も木嶋委員と同じで、今回、こういう状況にはなりましたが、しっかり議論を深めて、魅力ある学校につながっていければと思います。

児玉委員

最初にこの話を進めるときに、何も土台がないと話せない、だからある程度の案を出してということころで、今噴出しててるっていうのはそういうことだろうなと思うので、ここでしっかりまとめていくべきだろうなと思います。

あと、榎委員と同じことを私も言われました。小学校はきれいなところに入ったのに、中学校が今のままではやっぱり魅力を感じないで、恐らく別のところに行ってしまうよっていうのをやっぱり聞くんです。これが非常にもったいないなあっていうことで、町長さんが示してくださった人口減少対策として教育を位置づけるっていうしっかりした願いのもとの戦略ということで、一貫校の構想を聞いてるとすごく良いと思うので、思い切っていけないのか、この施設一体型の一貫校に一気にいけないのか、とは個人的に思います。特別委員会の報告が出てきた段階で二歩進んで、一歩下がってるような思いをしながら見ていて、本当にどの時点で何がどう決まってるのかっていう道筋が見えない、自分自身もこの中（協議する立場）に居ても、聞かれても答えようもなく、その辺りを本当に見える形に少しずつでもなってほしいなと思います。

森谷町長

私も言われてるのが庄司委員と同じで、今ある校舎が勿体ない、何に使うのか決まってないのかと、手順を経て検討していくと言うと、だから勿体ないという話になって、やっぱり中学校が古くなっているんだから、中部と河北中を比べてみるとやっぱり河北中を早くだよねと、そういう話になるんです。

校舎をいろいろ考えなければならない、学校とはまた別にと言うと、そこに対していろいろな意見が出てきて、そういうことから言うと、今回町民の関心が高まったっていうのはありますけども、今回の議会に出て私が思ったのは、今の校舎をどう使っていくんだというところに踏み込んだ議論が一緒にできると良いかなと、これまで遠慮してたら、1校にするっていう案だったら今の校舎どう使うかっていうのセットで出せば良いとの意見がありました。そのほかあったのは、若い保護者からは、13年の予定が遅れるのかと、要するに、一步後退に捉えてもう小学校はもうどっか行っちゃって、中学校に争点移ってきたのかと思ってる方もいるんでしょうけど、13年度まで小学校何とかして欲しい、中学校は新しい寒河江のような中学校に行きたいという話は中学校の保護者からありますが、小学生の子供たちは友達の多い統合した小学校に入学出来るのかなと思ってたんだけど、中学校が先になるのか、そんな意見です。

森谷町長

皆さんからもありましたけども、この関心が高まっているところでしっかりした案を考えていければということで、よろしくお願いします。

森谷町長

第3期教育振興計画について、それぞれの市町村は大体同一時期に策定しているですか。

森主幹

寒河江市は、今年つくって来年度から新しい計画になるようです。大江町もそうかもしれないです。

森谷町長

最近の見直し、今年見直したところとか来年に見直すとか、あるいは新たに策定するとかありますが、トレンド的に何が1番大きいんですか。環境の変化、課題っていうふうになると、やっぱり児童生徒の減少あるいはA Iとかデジタルとか、あるいはいろんな子供たちの環境変化、小中それぞれあると思いますけども、どの辺なんですか。

森主幹

7教振でウェルビーイングという言葉ができたので、みんなが幸せになれるような形の教育的なところ、それから町長がおっしゃったようにA Iとかデジタルがかなり入ってきてるのかな、10年前とは全然違っているのかなと思います。

森谷町長

教育振興におけるウェルビーイングっていうのは分かり易く言うと、どういうことですか。全ての子供たちは寄り添ったみたいなことですか。

森主幹

今までは学校が頑張っていれば、地域とかはそれにつながるだろうと思ってるような時代があったと思うのですが、今からは学校だけで担える時代ではなくなってきたので、地域とよりつながりながら、小学生でも中学生でも自分の立場で地域にも貢献できるような、そしてみんなが幸せになっていきましょう、そういった地域に貢献できるような子供たちを育てていきましょうっていうところが、すごく色が強いのかなと思ってます。

森谷町長

山形県でいうと地域貢献なんですか。

森主幹

それが全てっていうわけではないんですけど、山形県もやっぱり人口が減って
ますので、山形県としても人口減少を止めたいっていうときに、やっぱり地域と
つながって、自分自身が自分の立場で地域に貢献してる地域とつながってる、だ
から外に出ても戻って来たいとか、そういったところもありながら、若い世代も
それぞれの年代でそれぞれがつながって、みんなが地域とともに幸せになってい
きましょうっていう、ざっくりなところでいうと、そういう趣旨が強くなってる
と感じます。

森谷町長

私的には、障がいとか学力とか体力とかいろいろありますけども、全てがもう
それは個性だっていうとらえ方をしつつ、一人一人の個性に寄り添ったみたいな、
そういった意味で、私は教育って成長だと思っていますので、そこに対して個々
に応じた、伸ばし方っていうか、そういう意味からいうと、インクルーシブとか
包括性とか、あるいは一人一人に寄り添った教育とか、そういったことだと私の
頭には入ってくるんだけど、ウェルビーイングを地域貢献で考えた場合に、どう
地域に貢献するかというのは、成長するだけじゃなくて、その成長度合いに応じ
ていかに地域に貢献できるかっていうのは分かるんだけども、ちょっとウェルビ
ーイングでってのはよく分かってないです。

森谷町長

とにかく教育振興計画については、新年度に入ってからスタートです。

児玉委員

県の計画を受けるにしても、やっぱり町の課題っていうか、しっかりしていく
部分を打ち出すのが大事なかなと思います。

森谷町長

私は議会で選ばれる学校づくりって言ったんです、校舎づくりじゃない、選ば
れる学校づくりだと、

板坂教育長

他市町村から羨まれるような学校をつくる、その一つの特色とした場合に、施設一体型小中一貫校です。今は六つの小学校があって一つの中学校に行くのだけれども、小中一貫が今のままで達成できないんですかってよく聞かれるのですが、達成できないことはないけれども、より実効性、教育的効果を最大限に引き出すには、我々が目指してるような学校が良いと思います。今のある学校、中部小学校にまとめた場合には、やっぱり今までと同じ、小学校は六つが一つになっただけで、一つ中学校とは離れ離れ、それは最大限に可能性を引き出せないと思ってます。

議会でも学校規模が小さくなって、ほかに出て行った方がいることを知っているかと聞かれたことがあります。実際にそういった事例があります。逆に隣の市から大きな学校に来る事例もあります。だから、やっぱりそういう流れがあることをもっと知って、魅力ある学校、選ばれる学校を作っていきたいと思ってます。

私がつくづく思うのは、今の教室っていうのは、80年変わってないんです。一遍8メートル四方の正方形に、必ず黒板があって、南側に窓があって、1方向を見て、1度に先生の話聞いて、はい分かりましたっていうパターンです、極端に言うと。最近の高校とか近くに新しく出来た学校に行くと、テーブルがあって、グループをつくって、ホワイトボードが四つくらいあって、白い壁に映像を投影しつつ授業を行っていく、そういう我々の今までのイメージを変えた学校づくりをしていかなければということを自分は思います。

だから、それに見合った、全部の教室とまで言わないけども、いつでもそういう目標、狙いを達成するに必要なスクールがいつでも使えるような場所がある、こういう学校にしたいなというふうに思うんですが、なかなか理解してもらえないのが難しいです。

森谷町長

教育委員会というか整備委員会で視察しようとしたところ、人気があって行けなかったですが、私は首長の研修で行ってきました。全国からも視察が集まって

なかなか視察も受け入れていただけない小学校を見せてもらってきたのですが、そこは地域に開かれた学校がコンセプトです。地域に開かれた学校づくり、要は、コンセプトとして見れば、元教育長が首長だけど、やっぱ学校って最初の社会との出会いの場だと、要するに学校で社会を学ぶのでしょうか。ところが今の学校って閉鎖されてる、だから地域に開かれた社会に開かれた小学校をつくる、要するに社会と出会える小学校つくるというコンセプトの校舎づくりで、例えば授業は校舎でそれぞれやるんだけど、外部の人も自由にできそこで勉強してもらったらいいと、放課後に中学生も来たり、小学校が退校した後、小学校からドア隔ててすぐ、小学生は顔認証で登録なってる子供たちは自由に出入りできるんだけど、寝転べる場所で本を読むスペースがあったり、中学生もそこに居たり、要するに小学生同士で自由に時間が過ごせる、ゆったりできる、小学生、中学生とか、あるいは学生なんかも出入り出来るそういう学校、だからやっぱり学校って、どんな建物をつくるかっていう話だけでなく、コンセプトが大事だと感じました。

そのとき説明してくれた教育長さんの話が印象的で、学校っていうのは子供たちにとって社会デビューの場だと、それが学校という隔離された空間でいいんでしょうかっていうのが、この学校づくりでした。

森谷町長

時間も大分経ってしまいましたが、谷地高、児童クラブの状況はどうでしょうか。

宇野課長

谷地高については1点だけ、魅力発信というかですね、より谷地校としての魅力をということで、令和8年度からコミュニティスクールをしていくと、谷地高等学校が、今まで評議員会、PTAの方とか、中学校の母親委員会の方とか、私も評議員にはなってたんですけど、そうじゃなくて今度コミュニティスクールというふうになっていくとありました。メンバーはまだ分からないんですけども、谷地高はそういうふうにも動いていくということでもあります。

森谷町長

評議員会と違ってコミュニティスクールは、もっと何か権限あるんだよね。

宇野課長

コミュニティスクールの委員たちの中で評価をして、学校づくりに入ってくるわけですが、やり方がどうなるかですが。

森谷町長

皆さんから、なにかございますか。

板坂教育長

ぜひ、学校整備について、こういうふうに今後進めていったらもっと町民から受入れられるのではないかといた方法があったら少しぜひ教えてください。

児玉委員

2人がおっしゃってくれたような話が直に聞けるような、映像で流すなどでしょうか。

森谷町長

木嶋委員が言って頂いたように、関心の高まりだということで、この議論が良い学校につながればと思います。基本構想・基本計画の案が180度変わるじゃなくて整備方法の1点だということではありますけども、もう少し何か小中一貫教育の実現、あといろんなコンセプトが五つ入ってるが、これにもう少し何か、響くフレーズが出てくると、河北町はそういうところを目指して学校づくりしてるのかっていうものがあればと思います。

庄司委員

地域貢献の話もあったけど、やっぱり地域に開かれた学校っていうのを、私も会議の中で地域に開かれた学校をうまくつくってほしいなっていう発言をさせ

ていただいたのですが、どういうふうに魅力的なところをつくっていくか、難しいですが。

森谷町長

私が先の視察の件で1番印象に残っているのが、いわゆるコミュニティーセンターのような場所で、絨毯敷きのような場所で、周りに本があって、何かおもちゃなんかもあって、いろんな年齢層が好き好きにやってたかと思うと、中学生と一緒に勉強し合ってる子が居たり、何かいいなあと思いました。

庄司委員

どこの学校か忘れましたが、学校訪問で見てきた中で、椅子じゃなくって絨毯のところで座りながら勉強している、何かすごく伸び伸びやってるなっていうのは、印象に残ってます。

森谷町長

小中一貫が出来るという議論もあるけども、やっぱり建物っていう空間づくり、そういう中で先生方の交流もそうだし、児童と生徒の交流もそうだったり、理念的には別々よりは一体につながったほうが、同じ屋根の下のほうが濃密な連携ができるでしょうっていう、そういう言い方だけでなく、先生もそうだし、保護者もそうだし、ましてや児童生徒も、やっぱり施設1体ならではの、分離型の学校とは違う、学校の中身も教育だけじゃなく、いろいろそういった空間での時間の過ごし方というか、人との関わり方だとかを考えていければと思います。

森谷町長

ありがとうございました。

協議はこの辺でよろしいでしょうか。

なければ以上でよろしいでしょうか。

(全員了承)

協議については、以上となります。ありがとうございました。

4 その他

特になし

5 閉会

宇野課長

これもちまして、令和7年度 第2回河北町総合教育会議を閉会いたします。

～午後4時51分